

自立訓練施設ってどんなところ？

自立訓練施設では、障害者総合支援法に基づき、自立訓練（機能訓練・生活訓練）サービスを提供しています。病気や事故などにより身体に障害のある方や高次脳機能障害のある方を医療機関などから引き継いで、地域生活に向けた動作練習や家事訓練などの実践的な取り組みを行うとともに、就労や復職、余暇活動の開拓といった社会復帰するために必要な支援を行っています。



自立訓練施設のInstagramの日常や取り組みを発信しています。ぜひご覧ください！

パラスポーツを体験しました！

8月8日、広島市心身障害者福祉センターから渡部安彦さん（左）、免出義樹さん（右）に来ていただき、いろいろな投げ方を教わりフライングディスクを体験しました。

フライングディスクは2001年から全国障害者スポーツ大会の正式競技の一つとなっており、障害区分なく誰もが同じ条件で競技する唯一のスポーツです。

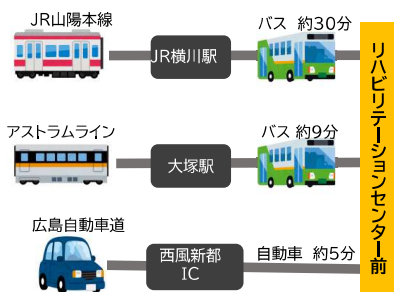


体験会は大いに盛り上がりました。さっそく大会出場に関心を持たれる利用者もおられました。

講師のお二人からは、スポーツを通じて障害のある方の行動範囲が広がって欲しい、体験会がそのきっかけになれば、とのお話でした。

施設では、他の専門機関と連携し、障害のある方の生活の充実に努めています。

広島市立リハビリテーション病院・自立訓練施設へのアクセス



〒731-3168 広島市安佐南区伴南1丁目39-1
 病院代表TEL : 082-848-8001
 自立訓練施設TEL : 082-849-2868



— 病院長就任のご挨拶 —



院長 竹下 真一郎

令和5年4月より、広島市立リハビリテーション病院 病院長を拝命しました 竹下真一郎 と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は広島生まれの広島育ちで、平成4年に広島大学を卒業し、広島大学脳神経外科学教室に入局しました。本年で医師となってから31年目となりますが、広島大学病院、県立広島病院、広島赤十字・原爆病院などで脳神経外科医として研鑽を重ねた後に、現職に就任しております。

広島市総合リハビリテーションセンターは2008年に開設され、本年が開設16年目となります。ご承知の通り、当センターは広島市立リハビリテーション病院、自立訓練施設、身体障害者更正相談所の三者で構成されており、リハビリテーション病院が中核施設となります。リハビリテーション病院では回復期病床100床を運用しており、そのうち約80%で、脳血管障害などの脳疾患と、骨折や脊椎脊髄損傷などの整形外科疾患の方が治療を受けています。パーキンソン病など神経難病の方に毎日集中的にリハビリを行う短期集中リハビリ入院も行っており、当院の特徴の一つとなっています。リハビリ後の在宅復帰率は約85%ですが、退院後も自立生活や復職のために訓練が必要な患者さんでは、病院併設の自立訓練施設で訓練を続けることがあります。また身体障害者更生相談所では、行政による中途障害者の相談や、義肢装具の判定業務などを行っており、生活期における障害者の多角的サポートに貢献しています。患者さんに寄り添いながら、急性期から生活期への橋渡しを行うことができる、広島市立病院機構内で唯一の施設として、広島市の地域包括ケアシステムの一翼を担うことが当センターの使命と心得ております。

当院の目標は、①急性期病院との連携の迅速化 ②生活期医療との連携の強化 ③在宅療養時の機能訓練の拡充 ④地域のリハビリテーション活動のさらなる支援 ⑤自立訓練施設の利用促進 です。近年、日本では人口の高齢化が加速しており、しばらくは高齢者医療の必要性が増加することが予測されています。一方で人口の減少も顕在化しつつあり、数十年先には医療全体が縮小する可能性も示されています。広島県も例外ではなく、必要な医療体制の変動を見据えて、これまでにないペースで医療体制の再編が急速に進んでおり、医療機関は柔軟な対応を迫られています。

当院は開設から16年目、地方独立行政法人化から10年目を迎えました。これからも自治体病院として、健全な経営を維持しつつ、市民の皆様方に信頼される医療を提供していけるよう、また時代のニーズに的確に対応できるよう、職員一同努力していきたいと考えております。今後とも、広島市総合リハビリテーションセンターをどうぞよろしくお願い致します。



副院長 杉原 勝宣

—副院長就任のご挨拶—

令和5年4月から広島市立リハビリテーション病院の副院長を拝命しました、杉原勝宣と申します。尾道出身で平成7年 防衛医科大学校卒、リハビリテーション科を専攻しました。大学附属病院以外は 横須賀や舞鶴の自衛隊病院、防衛庁退職後は茨城県の土浦協同病院や三重県の藤田保健衛生大学七栗サナトリウム（現 藤田医科大学七栗記念病院）でリハビリ科勤務し、現病院も15年目に入りました。社会の高齢化や医療費の増大など様々な問題がありますが、リハビリは今後更に重要になってくる分野と思っております。若い人が未来に希望を持って、年配の方が生き生きと生活できるよう広島でのリハビリ医療に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

当院での自動車運転再開に向けた取り組み

当院では脳血管疾患、脊髄損傷、切断等と診断され、運転再開を希望される方に対し、自動車運転評価や練習を行っています。実施内容としては、①脳機能の検査と②運転技能の検査（ドライビングシミュレータ）等があります。



当院ではドライビングシミュレータを使用し、運転反応検査や走行検査、運転補助装置の体験を行っています。反応検査では合図に対し適切かつ素早くペダルやハンドル操作が行えるかを確認します。走行検査では、三画面の映像を見ながら音声案内に従って市街地を走行し、アクセル、ブレーキ、ハンドル、ウインカー操作、安全確認、危険予測が行えるか等、運転技能を総合的に確認します。必要な場合には、安全に運転が行えるよう練習を行います。また、必要に応じどのような運転補助装置が必要かも一緒に検討します。

ドライビングシミュレータ



当院にある装置です

認定看護師・回復期リハビリテーション看護師の紹介



摂食・嚥下障害看護認定看護師1名、
脳卒中看護認定看護師1名、
認知症看護認定看護師1名、
皮膚・排泄ケア認定看護師1名、
感染管理認定看護師1名が
在籍しています。

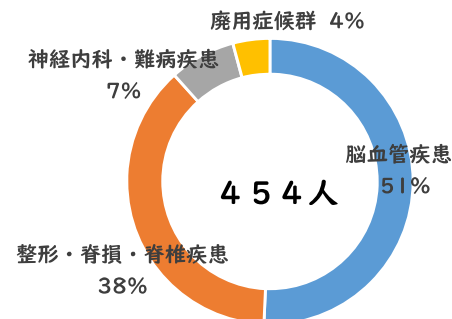
認定看護師は、熟練した看護技術と専門的な知識を用いて、看護現場において実践・指導・相談を行います。そして患者様により質の高いケアを提供できるよう活動しています。



回復期リハビリテーション看護師は、「その人らしい生活」を再構築するために、患者さんやご家族の希望、家庭や地域社会での役割・趣味活動を把握し、専門性を活かしながら患者さんの機能回復のサポートを行っています。病院全体で質の高いリハビリテーション看護を実践し、多職種で協働しながら退院支援の充実に努めています。

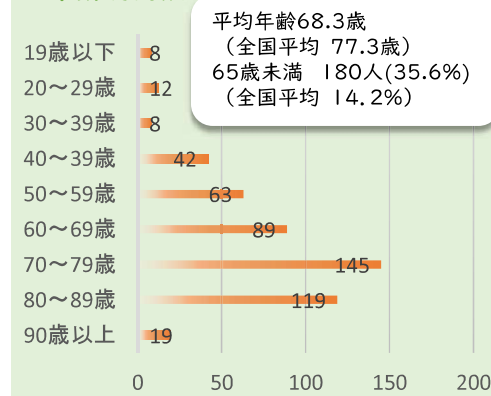
令和4年度 入退院の実績

入院患者主病名



若年患者が多いことが特徴です。疾患別では**脳血管疾患**が半数を占めており、神経難病の患者も受けています。整形・脊損・脊椎疾患では大腿骨近位部骨折の患者が35%、脊髄損傷の患者も20%を占めています。重症患者も受け入れています。

年齢別内訳



入院相談は医療支援室までご連絡ください。
直通Tel:082-849-2801